

カンボジア短信：2012年 9月下旬

小島正憲

1. 9/24、失神事件の余波。欧州の店舗で、カンボジアの工場改善を求め、従業員がデモンストレーション。



カンボジアの縫製工場において、仕事中に失神を起こした労働者の数が、1年間で 1000 人以上にも上っている。活動家たちはそれを受け、欧州のブランド衣料店舗で、カンボジア人の労働者の賃上げや労働条件改善を求めるデモンストレーションを行なった。

ロンドンやパリ、コペンハーゲンやワルシャワ、アムステルダムやブリュッセルといったヨーロッパの各都市において、活動家たちはカンボジアの工場の実態を記したパンフレットを配り、H&M や GAP、リーバイスや ZARA などのブランド衣料品店のフロアに失神し倒れ込むというデモンストレーションを数週間にわたり行なった。11 か国において行われたこのデモンストレーションは、カンボジア人労働者の賃上げや労働条件の改善を求めるキャンペーンのもと行なったものであると、

活動家グループのクリーン・クローズ・キャンペーンは主張した。

国際労働機関主導のカンボジア工場改善プログラム、技術アドバイザーの Jill Tucker 氏と、国際労働連帯アメリカセンターの地域部長 Dave Welsh 氏は、注意喚起したいといった活動家達的意思を認めているものの、昨年の夏からこの事件に関しては十分に世界の目を引きつけているため、いま重要なのは、利益と意味合いをもつ政策を見出すことであると話している。「この活動により簡単に解決できるものではありません」と Tucker 氏は話す。

H&M のマスコミ関係者 Anna Eriksson 氏によると、H&M 社は工場での労働状況を調査するため人員を派遣している。Eriksson 氏によると、H&M 社は自社の工場を持っていないため直接賃金を上げることは出来ないが、最低賃金を引き上げるよう工場改善プログラムと協力し政府に訴えているという。しかし H&M や他の会社のこういった行動の成果はほとんど見られず、金曜日には Svay Rieng を拠点とする手袋会社(Yorks Co Ltd)の工場にて、77 人の女性労働者がまた失神した。労務省保健局の局長 Pok Vanthath 氏の話によると、その工場で働く労働者の多くが失神の原因は有毒化学物質のせいであると主張しているものの、労務省はそれを証明するものをまだなにもないと話している。しかし、Bavet town の個人クリニックで治療を受けた 19 歳の Chan Sreyprum さんは、「耐え切れないほど不快な臭いにめまいがして、失神しました」と話している。今回失神した労働者たちは、給料を引かれることなく火曜日までの休養を認められたが、他の労働者はいつもどおりに働き続けている。

2. 労働者の失神多発についての各界のコメント



Kampong Chhnang 州にある縫製工場で働く Vicheka さんは、朝はたいいてい工場近くの行商人から朝食を購入している。「牛肉や豚肉の朝食です」、と彼女は話すが、彼女や同僚が今月仕事中に失神するずっと前から、こういった朝食が腹痛のもとになる、という噂はあった。カンボジアでは、太陽の熱に何時間も晒されながら売られている食べ物は決して珍しくはない。しかし、こういった食べ物はたいいてい衛生状態が悪く、味も良くない。魅力は安さだけである。「私の給料は安いんです。食べ物に使うお金がないのです。(良い状態で売られている食べ物は)私には高すぎます」と、H&M の衣料品を製造する工場働いているある 20 歳の労働者は話す。

ここ数週間、クリーン・クローズ・キャンペーンの一貫として、欧州のファッション衣料品店において、活動家たちが失神するというデモンストレーションを行なっている。彼らの目的は、H&M や GAP、リーバイスといったブランドで扱われる衣料品の縫製を行なっているカンボジア人労働者がどういった環境で働かされているのかを知ってもらうことである。クリーン・クローズ・キャンペーンは、連日続く失神問題の原因として、低賃金と栄養不良を挙げている。これに対処するためのシンプルな解決策は、カンボジア人労働者が基本的な生活を行うために最低限必要な額を、賃金として支払うことである、とキャンペーンの主催側は話す。労働団体 Asia Floor Wage Alliance によると、基本的ニーズを満たす生活をおくるには月 281 ドルが必要とされる。政府により承認を受け、今月から縫製業労働者の最低賃金が 10 ドル上がることになっているが、これでも月 83 ドルにしかならない。

「カンボジアの縫製業界は急激な成長を遂げており、今年最初の四半期で輸出額 10 億ドルに達した。ビッグブランドはこの賃金格差を埋める橋渡しをする義務があるはずである。ブランド会社や客側も、労働者の賃金につながるお金で

あることをふまえて、製品にもっと高い金額を支払う覚悟をするべきである。サプライチェーンの最下層にいる労働者たちは、長時間労働や危険な労働環境、ひどい状態の住宅や栄養失調に耐えています。」そして「彼らはもっと良い生活に恵まれるべきです」、とノルウェイで行われているクリーン・クローズ・キャンペーンのコーディネーターCarin Lefflerさんは話す。

「2月にプノンペンで行われた people's forum において、賃上げを求める主張を行っていたものの、ブランド会社からは十分な反応を得られていない。ブランド各社は、それぞれの仕入先に決まった額を支払います。その額が比較的低いのです。私たちは、ブランド会社の支払額を増やし、労働者が生活水準を満たす賃金を得られるようにするべきだと主張しているのです」、と Asia Floor Wage Alliance のコーディネーターAnannya Bhattacharjeeさんは話している。Asia-Pacific Levi Strauss & Co のスポークスマンは、「会社は労働者のことを気掛かりにしており、どのようにして労働条件を改善するか模索中である。労働者の権利や生活の問題に対処するため、縫製産業や政府、NGOなどと協力して動いています」と話している。

GAP と H&M は、労働者の賃上げを行うことが各社の優先事項にあるかどうかといったポスト紙からの質問に対して、まだ返事をしていない。GMAC 会長 Ken Loo 氏のコメントは昨日得られなかったが、過去に彼はポスト紙に対して、多くの縫製業労働者がボーナスや残業手当を含んだ手取り月 150 ドルを受け取っており、生活賃金を決定するには様々な計算が必要であるとの話をしている。

かつて Kandal 州の Tai Yang Enterprises で 12 年間働いていた Soramyさんは、友人たちに別れを告げて、長い間家として住んでいたおんぼろで雨漏りだらけの小屋を出た。故郷である Kampong Speu 州に帰って来る際には、複雑な想いが彼女の頭を駆け巡った。夜にほかの 8 人もの労働者と寝床を共にしなくてよかったことに安堵する気持ちはあったが、同時に、夫をなくした母を世話するのに十分な稼ぎが得られなくなってしまったことに落胆する気持ちもあった。「私が繊維業労働者であった期間、一度も満足いく食事をすることはできませんでした。与えられていたのは、毎食のお小遣いにたった 500~1000 リエルです。お腹いっぱいになることは出来ましたが、栄養があるものだとはいえませんが、到底言えません。

「多くの縫製業労働者が、職場の近くにみすばらしい家を借りて住んでいる。そして労働者の賃金が上がれば、同時に家賃や食品の値段も上がってしまうことが多い。だいたいの人が、他人とぎっしり詰められた小さな部屋に住んでいます。屋根は雨漏りするし、毛布や枕も汚く、ベッドは床。全員が同じ場所で食事を取る。これが、縫製業労働者の生活です」と、Cambodian Labour Confederation 代表 Ath Thorn氏は話す。Thorn氏は、生活賃金として月 280 ドルを主張しているが、この業界で働く何十万人もの労働者全員にこの額を実現させることは、長い期間がかかると考えている。「2009 年の研究では、労働者 1 人が 4 人家族を支えたとすれば最低でも月に 120 ドルが必要であると出ています」と彼 3 年たった今では、200 ドルに上がっていると考えられるべきでしょう。この数値を目標として、動いていかなくてははいけません」とも話している。

労働者のための短期的な解決策としては、即急な賃上げではなくそれ以外の取り組みを行うことが必要であると、国際労働連帯アメリカセンターの地域部長 Dave Welsh氏は話した。280 ドルの生活賃金が最も妥当であると言えるが、残念ながら今のところは到底無理な話である、とのことだ。彼の所属する組織は、メジャーブランドと話し合い、労働者に食事を提供してもらうよう交渉を続けていく予定である。「これで、彼らの支出の 65 パーセントは削減され、インフレ圧力から解放されることになるでしょう。少額の賃上げであれ、政府はそれで自分たちの行いを良く見せることができます。しかし、工場周辺は会社都市のような構造になっているため、家主や屋台の売り子は賃上げと同時にたいい値段を上げてしまうのです。この問題は、家主に家賃を価格統制するよう働きかけることで、対処できます。」と Welsh氏は話している。今月初旬作中に失神した Vichekaさんや彼女の同僚は、いかに変革が起こるかといったことよりも、適切な食事ができるようになることを求めている。「栄養のしっかりした食事をとっていれば、私は失神することはなかったでしょう」と彼女は話している。

3. 9/26、ジーンズ工場で抗議活動発生

プノンペンにある Conpress Holdings jeans 工場で、解雇された4人の同僚の復職を求め、約 100 人の労働者がストライキを起こした。Free Trade Union 代表者の Luch Lin Ang 氏の話によると、1000 人以上の労働者が働く The Seak Meanchey district 工場は、8 月、労働組合を結成しようとしていた 4 人の労働者を解雇したとされている。「残念なことですが、これから会社はより多くの労働者を解雇することになるでしょう」と Luch Lin Ang 氏は話す。労働者の Yem Srey Ne さんは、解雇された 4 人は何も悪いことをしていないのだから、復職させるべきであり「規定外残業をしる、などという会社の命令から労働者の権利を守るため、私たちは組合活動を必要としています」と話している。ストライキの後に行われた労働者や自由労働組合代表者との会合のなかで会社は、解雇した 4 人のうち 1 人に関しては復職を認めたが、残りの 3 人に関しては拒否している。工場の代表者からはまだコメントがない。

4. 9/27、玩具工場でもストライキ発生



ぬいぐるみを作っている First & Main 社で働く労働者が、未払いの賃金が支払われることを期待し職場にきたものの、代わりに彼らの目に入ったのは、プノンペン工場の設備は全て競売にかけられ、会社は永久に閉鎖した、との知らせが書いた掲示板であった。「設備が売れれば、委員会が労働者に支払われるべき金額を支払います」と掲示にはあった。357 人の労働者は、経営側との会合のため 9 月 10 日に帰ってくるよう言われており、その際に 8 月の未払い賃金や、これからの仕事に関して話し合いをする予定であった。しかし労働者たちが訪れたその日工場に工場主の姿はなく、彼らは仕方なくあたりをうろついていた。

経営代表者の Holes 氏は、「統制の効かなくなった労働者たちが工場をめちやくちやし、CCTV カメラを破壊したため、命の危険を感じて建物のなかに閉じこもっていた」と話している。会社側は労働者への未払い賃金を 2 分割にして支払うことを約束しており、今週は 2 回目の支払い期限であった。社会問題相によると、Holes 氏は売却に出した工場の設備が売れ次第、労働者の賃金を支払う予定でいるという。労働者代表の Mech Mom さんは、「それに関して私たちは同意しました。なので、もう 1 週間待たなくてはいけません」と話している。

5. 9/19、縫製工場の労働者が行方不明に

9 月 10 日、プノンペンの Dangkor 地区にある縫製工場で働いていた 18 歳の Thol Vin さんが、いつもどおり仕事に向かったあと姿を消した。昼の休憩時に姿を消すまで、彼女はそこで 2 年以上そこで働いていた。「愛する娘のことがとても心配ですし、会いたいです。」と彼女の父親である Sak Thol さんは泣きながら話した。そして、Thol さん夫妻は娘の失踪に関して、人権団体の NGO、Adhoc と Licadho、Sam Rainsy 党議員 Mu Sochua 氏に訴えた。「娘はまだプノンペンにいますと考えています」と父親は話す。

Vin さんの叔父である Sorn Sin さんは、Vin さんの居場所に関して情報提供し親族からお金をもらおうとする人々から多くの電話を受けている、と話す。「姪がいなくなった 2 日後に男が連絡してきて、姪は Banteay Meanchey 州にいますと言ってきた。もし私が 300US ドル支払えば彼女をプノンペンに連れ戻す、と話していた」と Sin さんは話す。Meanchey 地区の長である Phin Phorn 氏は、「職員や警察に対して Vin さんの居所をつきとめるよう命令した」、と話している。

6. 9/18、日本経済団体連合会 のメンバー等がフン・セン首相と会談

Agence Kampuchea Presse によると、フン・セン首相は金曜日(9 月 14 日)、日本から来た投資家の派遣団を迎え入れた。日本経済団体連合会 の藤野孝氏に率いられた派遣団訪問の目的は、カンボジアにおける投資可能性を見出すことである。カンボジアを訪れる日本からの投資家たちの数は増えており、フン・セン首相は彼らに、農業や鉱業など様々な分野への投資を考えてほしい、と考えているようだ。

カンボジア日本人商工会のプノンペン事務局長である道法氏は、日本からカンボジアへの投資が増加していることを歓迎している。カンボジア開発評議会により投資計画として承認されたプロジェクトの総数は、2010 年には 6 つだったのが 2011 年には 20 へと増加している。日本からのカンボジアへの投資は、2010~2011 年の間、製造業に集中していた。しかし道法氏によると、今年はサービス業が中心となるだろうとのことだ。製造業への投資が重大な役割をしているのと同時に、日本の投資の多様化も進んでいる、と彼は話す。カンボジア ジャパン ビジネススクールの経営者 Hak Sotheary 氏は、「特に今年、より多くの日本企業がカンボジアを訪れることになるだろう」と話している。

7. 9/20、複数の州で洪水問題が発生



3 つの州を襲った先週末の洪水により 3 人が溺死し、一時約 5,000 世帯が避難していた。カンボジア赤十字が話したところによると、赤十字は現在支援物資を集めており、米のパックや魚の缶詰、麺などの物資を計 2340 世帯に提供する予定としているようだ。この 2340 世帯のうちほとんどは Banteay Meanchey 州に暮らす世帯である。

避難地域となっている Banteay Meanchey 州 Ou' Chrov 地区の Ou' Bei Chean 村では、34 歳男性の遺体が昨日見つかっている。彼は自分の家族が安全な場所に避難している間に、ひとりで家に戻ったのだと、コミュニンの代表である Suong

Suon さんは話している。またコミュニンに 11 ある村のうち 10 つが洪水の被害を受けて、126 世帯が避難を余儀なくされている、と彼は話す。「村人たちは食料品を必要としています、カンボジア赤十字は木曜日に、食料や物資をこの 126 世帯に配布してくれる予定でいるようです」と付け加えた。Kampong Thom 州 Kampong Svay 地区では月曜日に 59 歳の

男性が溺死し、また、先週末シェムリアップでも 12 歳の少女が溺死している。Poipet 市の政治家 Ngor Meng Chroun 氏は、市の職員たちは Poipet 市を含む洪水の起こった区域から市民を避難させるので手がいっぱいである、と話している。

8. 9/27、洪水がもたらす投資への影響は

カンボジア商務大臣 Cham Prasidh 氏は、生産拠点をタイにもっている海外投資家は、将来的な投資の拡張先としてカンボジアを選ぶべきだと話しており、利点は、カンボジアは洪水からの強い防御力だとしている。

昨日のプノンペン・ホンダ 20 周年記念会にてスピーチをした商務大臣は、「カンボジアは毎年洪水に見舞われているものの、ほとんどの工場や産業に深刻な影響を与えてはいない。洪水による影響を受けたのはメコン川沿いにある田んぼのみで、工場には特になかった。今年の洪水は去年のものよりも大きいものになるとの予想もしているが、経済への悪影響を抑制しようと取り組んでいるところです。カンボジアの産業分野はだいたい洪水の起こる地域からは離れたところにあり、影響を受けるはずはありません。カンボジアには素晴らしいビジネスエリアがあり、これはよりよい投資環境、投資インセンティブを与えます。私は、タイに工場をもっている日本企業が、カンボジアを新たな投資先として考えてくれると、実に期待しております」と話した。

カンボジア総合研究所の CEO である鈴木博氏は、カンボジアは隣国に比べて洪水の影響を受けていない点に同意している。また、彼は、道路などのインフラ整備もほぼ損害がなく、プノンペンとタイ、ベトナムをつなぐルートも深刻な影響はないことを強調したが、シェムリアップにおける観光業にとっては障害になったようだ。「幸運なことに、カンボジアの産業分野は洪水に対してとても強いです。去年の洪水はここ 10 年間で最も大きなものでしたが、しかしほとんどすべての工場が、少しのダメージも受けていません。衣料品や織物といった主要産業は洪水の影響を受けにくかったようです。プノンペン経済特別区域に工場を展開し始めている日本のミネベア社が、洪水に影響されない産業としての良い例になる」と話し、「タイに工場をもつ日本企業が、昨年の洪水による損害のためにすぐにカンボジアに工場を移すことはなかった」、とも話した。

カンボジア一般保険協会のチェアマンである Chhay Rattanak 氏は、「去年の洪水は、100 万ドルの費用をかけた Banteay Meanchey 州の鉄道計画や、シェムリアップでの建設計画などいくつかを延期させたこと」を話した。

9. 9/21、プノンペン第 2 国際空港について

毎年増え続ける観光客の増加を受けて、フン・セン首相は昨日、プノンペンに新たな国際空港を設立する予定であることを発表した。

2020 年までにカンボジアを訪れる観光客の数は 700 万人に昇ると期待されている。「長期間における開発になる為、1000 万人の旅客を受け入れることのできる国際空港を新しくつくる事が、実現可能であるかどうかの検討をまずは行わなくてははいけません」と首相は話した。「いまある空港だけでは、年に 800~1000 万人といった大勢の観光客を受け入れることはできません。今の空港は小さいですし、多くの来訪者を扱い切れません。近年、プノンペンに発着する飛行機の数はい少ないのですが、もしこれ以上飛行機が増えることがあれば、どこに着地しろというのでしょうか」、そう首相は続けた。

フン・セン首相は、新たな国際空港を立てるため候補となっている土地に関しては、「空港をどこに建設するか、我々はすでに検討しています。現在の空港からは少し離れた場所になるでしょうが、甚大な土地投機につながる情報なので発表するつもりはありません。」と、明言を避けた。

また、首相は、シェムリアップにおける新たな国際空港(NSRIA)の建設が順調に進んでいることを報告した。NSRIA はカムコエアポート社とリーズ A&A 社という 2 つの韓国会社に保有されており、建設は 2 社による 10 億ドルの資本投資とともに始まったものであり、それぞれの会社が 50 パーセントずつ株を保有している。年に 1000~1500 万人の乗客を受け入れることの出来る NSRIA は、Chie Kreng 地区と Sonikum 地区 2 つにまたがる 500 ヘクタールの用地に建設される。地方の中心都市であるシェムリアップからは 60 キロほど離れたところにある。NSRIA 建設の事に携わっているカンボジア民間航空局の次官 Kim Sophoan 氏は昨日、「プノンペンの新国際空港に関してなにも知らなかった」、と話した。また、近年、旅行客が増加しているため、世界水準の国際空港をつくり、より大型の航空機を受け入れることを可能にする必要があることに、彼は同調している。

プノンペン国際空港の通信・広報の担当 Khek Norinda さんは、「カンボジア空港は、来年プノンペンの現在の空港を拡張しようと準備を進めており、この計画は 2014 年か 2015 年の頭までに完成する予定である。この拡張計画は、来年始めに開始する予定です。2 つの空港の計画が進むことにより、どちらも受け入れる乗客の数を 2 倍の 500 万人に増やすことが出来ます。シェムリアップに 500 万人、プノンペンにも 500 万人です」と彼は話している。

以上